

大会宣言

2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が東日本を揺るがした。巨大地震は、大津波と原子力発電所の事故を誘発し、太平洋沿岸の各地では、人々の生活基盤が一瞬のうちに破壊された。震災直後、人々は、日々を生きることだけに精一杯で、復旧・復興への道筋は見え、絶望の淵にいた。そのような中、全国そして国境を越えて、多くの支援の手が差し伸べられた。

また、被災地の復旧・復興に当たり、これまでに見られなかった自発的な自治体間の支援が行われるとともに、市民や民間企業、NPO、ボランティアなどの重層的な連携が大きな力を発揮した。特に、多くの若者がボランティアによる救援活動に積極的に参加し、新しい可能性が芽生えてきている。

被災地の人々が、希望を持って暮らしていける環境を作り出すことこそが、真の復興のまちづくりであり、世界や日本中からの支援により、期待した復興が成し遂げられたとき、東日本大震災で生み出された『絆』が開花するであろう。

私たちは、本会議における議論を踏まえて、次のことを宣言する。

- 一． 私たちは、復興の大きな力となっている人々の『絆』を未来へとつないでいくとともに、古くから日本社会にあった助け合い、支え合いの心を大切に、豊かな社会の創造を目指していく。
- 一． 私たちは、自治体間の連携により、広域災害に効果的かつ円滑に対処していくため、全国的かつ自律的な連携が機能するような社会システムの形成を目指していく。
- 一． 私たちは、被災地の復旧・復興が長期に及ぶことから、今後も被災地に寄り添いながら支援を継続していく。

平成 24 年 10 月 12 日